

ポストのある風景

ポストから広がる絆 32年のフォトコンテスト

日本郵政グループ労働組合（JP労組）南予支部では、郵政事業を象徴する「ポスト」を題材としたフォトコンテスト「ポストのある風景」を毎年開催している。組合員や地域の人々に郵便サービスの魅力を再認識してもらうとともに、郵政事業の大切さを伝える取り組みだ。

今年で32回目の開催を迎えるこの活動をおして地域社会とのつながりをどのように築いているのか、労働組合としての社会的役割をどう体现してきたのかを、南予支部OBで、フォトコンテスト立ち上げメンバーでもある上田利明さんと、現在の運営責任者である南予支部支部長の仲村猛さんに伺った。

親しみの持てる 地域の郵便局でありたい

「ポストのある風景」の活動の目的とは？

仲村 いつも見かけるポストや郵便局、配達員、赤い車などをモチーフにした写真の撮影をおして、郵便局をより身近に感じていただくことを目的としています。また、郵政事業が人々の生活になくてはならないものとして、地域政策の活性化にもつながると考えています。

開催のきっかけは？

上田 郵政民営化の動きに対し、当時の労働組合は「地域の皆さんの郵便局

を守っていく」という思いと、「自分たちの雇用を守る」という2つの柱から「民営化反対」の意思を持っていた。そこで労働組合として、地域の皆さんとのつながりをより強めるために何ができるかを考えました。

ポストに投函するところが入口で、愛媛から全国に送られ、各家庭のポストに配達されるのが出口だとすれば、ポストからポストへの間に私たちの仕事があります。コンテストによって「こんなところにも、こんなポストがある」ということを全国の人に見てもらえたら、郵便局に親しみや理解を持つてもらえるのではないかと。その頃は様々な写真コンテストがあつて、「全国のポストの写真が集まったらおもしろいかな」ということもありました。



▲ 第1回特選作品。上田さんのお気に入りの1枚で「子どもがポストに手紙を入れようと背伸びをしている姿に「未来」を感じます。撮影者は地元大洲の方。風景は変わってしまいましたが、今でもこのポストは残っています」と語る。

ろいかも」と考えたのが始まりです。今では労働組合の運動の枠を超え、文化的な活動としても成長し、認められるようになりました。

応募者や地域の人々に 喜んでもらうために

「応募数はどれくらいですか？」

上田 最初の頃は70〜80作品くらいでしたが、全国の組合員への呼びかけや、カメラ・写真雑誌での告知によって写真愛好家からの応募も増え、近年は毎年200〜300作品ほど集まっています。2024年の第31回では269作品の応募がありました。

仲村 しかし最近ではスマホでの撮影

や歌を作ったこともあります。第30回の時には、JP労組四国地方本部にもご協力いただきカレンダーを作成して、応募者全員にプレゼントしました。

上田 写真の専門誌に入選作品を掲載して、プレゼントしたこともありましたね。応募してくれた人に喜んでもらう、励みになるような返し方を工夫しています。

30年の継続を支えた 運営役員の思いと底力

「30年以上継続できた理由はなんでしょう？」

上田 ただ単にコンテストの開催だけを目的にしていたら、応募者も減ってやめていたかもしれません。活動

仲村 私にも「ポストのある風景」がなければつながることのなかった出会いがありますし、「労働組合があつてつながれた」という経験もたくさんあります。

上田 続けるって大変だと思えます。特に、担当者が次々と変わっていく労働組合において、30年も続けている運動ってすごいですね。始めた頃はエネルギーがあつても、引き継がれ

が主流となり、専門誌の廃刊も相次いで、今では告知の掲載は1誌のみ。広める機会がなくなりつつあります。SNSなどの活用も検討していますが、周知のあり方が課題です。

上田 活動継続のために若い人の応募も増やしていきたいので、高校の写真部にPRするなど新しいアプローチも取り入れています。



▲ 仲村猛さん
先輩方から引き継いだタスキを途切れさせるわけにはいかない。その一心で活動を続けてきたという。

「入賞作品はどのように発表していますか？」

仲村 入賞作品は南予支部エリアの郵便局のロビーで展示し、地元の皆さんに見ていただいています。それぞれ2週間程度展示して回ります。

上田 郵便局を訪れたお客様からも好評で、「あの写真も見えるかな？」とか、過去には「亡くなった知り合いが写っているからほしい」と言われたこともありました。地域とのつながりを

る過程でだんだんと弱まってしまいうのが常だと思いますが、それがつながっているところに南予支部の底力みたいなものを感じています。

仲村 これからも全国の支部の活動を教えてもらい、新しい知見や発見からおもしろいことができたかと思っています。

「ありがとうございました。」



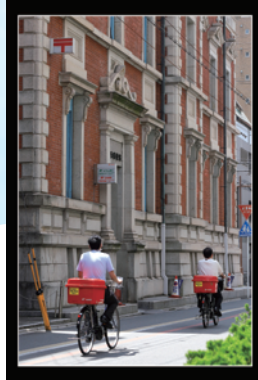
▲ 節目の回で制作したカレンダーやオリジナル切手、本、CDなど

現地訪問

入賞作品は南予支部エリア内の郵便局ロビーで順次展示しています。



▲ 郵便局ロビー



▲ 第31回の推薦作品『Postmen』。ビルが並ぶ街角を巡る郵便局員さんの写真は仲村さんのお気に入り

八幡浜市には赤いポストのほか、オレンジ色と黒色のポストも。オレンジポストは、毎年八幡浜で開催される世界マーマレードアワードを、黒ポストは地元の黒い温泉「モール泉」をイメージしているそう。



第32回『ポストのある風景』 フォトコンテスト

募集期間

2025年4月1日～2025年7月31日必着

題材

ポストや郵便屋さんなど、郵政事業がイメージできるもの

写真サイズ

カラーおよび白黒：四つ切以上（ワイド・サービス可）、A4サイズも可

応募方法

郵送にて下記住所へ送付
〒799-3401
愛媛県大洲市長浜甲703-3 JP労組南予支部

詳細は、JP労組四国
地方本部ホームページで確認ください。

